

進路だより

令和4年12月16日発行

岩手県立釜石祥雲支援学校

進路指導部

中学部 後期校内実習



11月14日～25日の9日間、中学部の後期校内実習が行われました。新校舎に移転してからの初めての実習となりましたが、場所が変わっても生徒たちは大きく戸惑うこともなく、集中して製品作りに取り組みました。今年は期間中に販売会は行いませんでしたが、より良い製品を作るために気をつけることは何か、はっきりと大きい声で挨拶や報告をする等、それぞれの課題を意識しながら、一生懸命取り組むことができました。コロナウイルスの影響で何名かは休むことになりましたが、いない人の分も協力して取り組んでいたところが、前期よりも大きく成長していたところでした。「働くことの練習をする」ことが実習の目的でしたが、参加した生徒全員が達成できた、充実した実習になりました。

家庭班

「指示を守って最後までがんばる」「相手に分かるようにあいさつや返事をする」「エコバッグを5つ作る」ことを目標に取り組みました。相手の目を見て話したらさらに良い等の課題はありますが、エコバッグを2つ、ランチマットを4枚、刺し子布巾を7枚作ることができました。



紙工班

「紙を330枚作る」「ていねいに、協力して、最後まで紙を作る」ことを目標に取り組みました。合計365枚の紙を作ることができました。集中力に課題はありますが、休んだ友達の分もカバーし、365枚の紙とコースターや付箋、メモ帳等の製品を作ることができました。



※各班のコメントは生徒たちが自分たちで振り返り、報告会で発表した内容を元に載せました。

釜石ハローワーク主催

事業所見学会

実際に働く人たちの仕事の様子を見学し、卒業後の進路に対する意識を高めることを目的に、11月9日(水)事業

所見学会を行いました。生徒たちの目はキラキラ輝き、表情は真剣そのものでした。ご多用の中、ご協力いただいた企業の担当者様、調整いただいたハローワーク釜石の皆様、本当にありがとうございました。

三陸花ホテルはまぎく



いろいろな仕事があることが分かりました。

アミーガはまぎく(業水会)



介護の仕事は、大変だけど、やりがいのある仕事だと思いました。



座ったまま入れるお風呂。高級車が買えるくらいのお値段。



技能認定会



11月29日(金)「第6回岩手県特別支援学校技能認定会(沿岸南部会場)」が気仙光陵支援学校を会場に開催されました。技能認定会は専門的な技能の習得のみを評価するのではなく、どれだけ自分の力を発揮し、しっかり作業できるか普段の学習の成果を評価します。また、卒業後に向け、企業・関係機関からの客観的な評価を得ることや生徒理解の促進と一般就労を含めた雇用機会の拡大につなげることが目的の1つとなっています。

今年度の種目は「会場設営」でした。参加した5名は審査員や見学者がたくさんいる中でとても緊張したようでしたが自分の力を発揮できました。競技後はテーブルを運ぶなど大変な時は協力を求めても良いこと、配付資料が不足の時はその事を伝えて補充すること、声の大きさ、作業スピードなど働く上で大切なことについて助言がありました。自分の強みやこれからの課題を知る良い機会となりました。《来年度は本校で開催予定》



指示書を読んで開始(制限時間は10分間)



会議用のテーブル設置



拭きテーブルをきれいに



指示書の配置図どおりに会議資料、封筒、お茶をセッティング



見学者5名は開会式の進行等を担当しました。



小学部 第2回進路学習会



11月8日（火）に小学部第2回進路学習会が行われ、4名の保護者さんが参加しました。今回の内容は、①高等部の作業学習の見学、②高等部卒業後の進路や生活の様子についてでした。生活介護や複数の事業所を利用するケースについての話もありました。内容を一部紹介します。

各班の製品の紹介も生徒が行ってくれました。



手芸班

紙工班



工芸班



生活介護とは…

食事や入浴、余暇など生活等に関する援助や支援をしてくれる場所です。空かない施設が多いのが現状のようです。一週間の中で複数の事業所を利用することも可能です。



真剣に作業に取り組む高等部生徒に、保護者の皆さんは感心していました。

日々の学習を積み重ねることが成長につながります。お子さんの成長に合わせて進路を考えていきましょう。



中学部 第2回進路学習会



11月28日（月）に中学部第2回進路学習会が行われ、6名の保護者さんが参加しました。今回の内容は、①特別支援学校の高等部入学に至るまでの流れ、②高等部卒業後の福祉サービスについてでした。高等部に入学するためには、体験入学や教育相談を受けること、釜石や大槌を中心に遠野や山田の一部も含めた事業所の作業内容や送迎、食事に関することまでの内容でした。沢山のお話の中から、ポイントを2つご紹介します。

ポイント1 教育相談について

教育相談は中学部3年生を対象にしています。学校によって違いますが多くは9～12月頃に実施されます。希望する特別支援学校の高等部に申し込み、本人・保護者・担任が参加します。教育相談への参加が**受検資格**となりますので、早めに進路について考えることが必要です。

ポイント2 就労移行支援について

かまいしワーク・ステーション、まごころ就労支援センター釜石等で利用できるサービスです。原則として一般企業への就職をめざしている方が、就職するために様々なサポートを受けながら訓練をする場です。一般的に**24カ月まで**しか利用できません。そのことを考えるとB型を利用して実力をつけてからの利用がいいかもしれません。

※裏面と内容一部重複あり。質問コーナーも併せてご覧ください。



質問コーナー

沢山お待ちしております。
います。

～保護者の皆さんから寄せられた質問にお答えします～

Q 1 卒業後、親元を離れて遠方で就職する方はいますか？

A 釜石では、あまりお聞きしたことがありません。以前勤務させていただいた沿岸の支援学校ではありました。その方は、花巻の石鳥谷にある『松風園』というところに泊まりながら、日中は就労移行支援のサービスを利用して一般就労を目指すという進路を選択しました。そこで花火の袋詰めや部品組み立てなどの仕事をし実力をつけ、現場実習を何回かしました。現在は、グループホームで生活し、デイサービスセンターで老人介護の仕事をしています。また、入所して生活介護を利用するという方は、最近は入所施設に空きがないため、あまり見られなくなりました。

Q 2 就労移行支援のサービスについて教えてください。訓練内容をきちんと知りたいです。メリット、デメリットは？

A 一般就労を目指している方が行かれます。就労のための知識や能力を身に着けるために訓練します。期限があって原則24か月の間に就労先を探さなければなりません。釜石圏域には『まごころ就労支援センター釜石』と『かまいしワーク・ステーション』の2か所あります。訓練内容は、右図をご覧ください。メリットは、一般就労に特化した訓練をしてくれること。デメリットは、24か月という期限が決まっていることです。

就労移行支援

訓練内容の一例

訓練内容は、施設によって様々ですが、よくある事例をお伝えします。

- 1 就職するまでの求人の探し方やハローワークの登録等の支援
- 2 ハローワークや企業の面接練習
- 3 企業での実習
- 4 就職した後に仕事を続けることができるように支援
- 5 就労移行支援事業所で用意された仕事

質問のある方は、担任まで。

そして、進路部がお答えします。